

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名：一般国道359号 砺波東バイパス <small>と な み ひ が し</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点：自：富山県砺波市芹谷 <small>と な み</small> 至：富山県砺波市高道 <small>と な み た か ん ど</small>			延長	6.1km
事業概要：国道359号砺波東バイパスは、災害に強い緊急通行確保路線の強化、線形不良区間や隘路箇所の解消、冬期路肩堆雪による交通障害の解消などを目的とした、延長6.1kmのバイパス事業である。				
H9年度事業化	H4年度都市計画決定	H9年度用地着手	H10年度工事着手	
全体事業費	約231億円	事業進捗率	72%	供用済延長
4.5km				
地域の防災面の課題 ・老朽橋(太田橋)では、出水時等の通行規制により大幅な迂回が生じる (平成9年7月の梅雨豪雨により、河床の砂利が流され、倒壊の恐れがあることから通行止めが発生) ・狭隘、歩道未設置区間では、車両のすれ違い困難や歩行者の車道歩行などの冬期交通障害が発生 ・急カーブが連続する区間で死傷事故率が高い(死傷事故率100件/億台キロ以上の箇所が6箇所) ・上記のように事業区間現道沿線で日常生活を営む上で重大な障害及び不安要素となっており、砺波市からも整備促進の要望が出されているなど地域の喫緊の課題となっている。 ・現道に歩道がないため、大雪の際に歩行者が車道を歩くことから非常に危険性が高く、冬期交通障害に対し早急に対応が必要。【国道359号砺波東バイパス防災効果検討委員会(H25/9,10)】 ・架橋から76年経過している太田橋については、これまで同様、適切に点検し補修(クラック注入等)を行うとともに、老朽橋梁の交通負荷軽減の対策が必要。【国道359号砺波東バイパス防災効果検討委員会(H25/9,10)】				
課題を踏まえた対策・事業内容 ・隘路・急カーブ区間については、別線ルートでの整備により、良好な平面線形(R=200m)が確保され、現道の冬期交通障害も改善することから、防災面から見て技術的に妥当。 ・また、計画案は別線にて庄川の橋梁渡河部を新橋で架橋することで出水時の安全性を確保し、さらに老朽橋梁の太田橋への交通負荷が軽減することから、防災面から見て技術的に妥当。 【国道359号砺波東バイパス防災効果検討委員会(H25/9,10)】 ・橋梁等の別線を整備することにより課題箇所を回避。				
事業の効果等 ①災害に強い緊急通行確保路線の強化 ・富山県の地域防災計画で第2次緊急通行確保路線に位置づけられており、災害時の救援物資の輸送等、重要な役割を担う。 ・老朽橋梁太田橋の代替路が確保され、災害に強い緊急通行確保路線の強化が期待される。 ②線形不良や隘路箇所、冬期通行障害の解消 ・急カーブや幅員狭隘区間を回避することで、冬期すれ違い困難等の通行障害を解消。 ・砺波市と富山市方面との移動の円滑性や安全性、製品輸送時の安定性等が向上し、物流効率化を支援する。 ③観光振興の支援 ・周辺観光施設と北陸新幹線富山駅、富山きときと空港等の交通結節点とのアクセス強化や観光の周遊性強化を図り、観光振興を支援する。			費用：(残事業) / (事業全体) 53/280 億円 (事業費： 52/276 億円) (維持管理費： 0.76/3.9 億円)	

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

砺波市より災害時の信頼性が高く、物流効率化にも寄与する砺波東バイパスの早期完成についての要望を頂いている。

知事の意見：

今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮を願いたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、再評価及び対策方針(原案)の「事業継続」は妥当である。

事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等

- ・平成16年11月に旧砺波市と旧庄川町が砺波市として合併
- ・平成20年7月に東北北陸自動車道が飛騨清見IC～白川郷ICの供用により全線供用
- ・平成26年度には北陸自動車道 高岡砺波スマートICが供用

事業の進捗状況、残事業の内容等

事業の進捗状況：用地進捗率99.6%、事業進捗率72%（平成28年度末予定）

残事業の内容：砺波市芹谷～砺波市頼成間（延長1.6km）完成2車線整備
砺波市頼成～砺波市高道間（延長4.5km）完成4車線整備

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

未供用区間である砺波市芹谷～砺波市頼成間(延長1.6km)について、平成31年度中の完成2車線供用を目指して事業を推進する。

完成4車線の整備については、交通状況を勘案しつつ整備時期等について検討する。

施設の構造や工法の変更等

建設発生土の有効活用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

国道359号砺波東バイパスは富山市と金沢市を結ぶ重要幹線道路として、砺波市、小矢部市など県内の中核都市形成に大きな役割を担っている。

砺波東バイパスの整備により、災害に強い緊急通行確保路線の強化、線形不良区間や隘路箇所解消、冬期路肩堆雪による交通障害の解消など、期待される効果は大きいため事業を継続する。

事業概要図



※1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。